

(白文)

逐電

塵中狹狹憂來多

花卷邱山癒宿痾

虛室坦懷耽誦讀

香煙流麗若鬢髻

(書き下し文)

逐電

塵中狭々として憂来多し

花卷邱山にて宿痾を癒す

虚室に坦懷として誦読に耽り

香煙流麗たること鬢髻のごとし

(現代語訳)

逐電 (唐突に逃げて姿をくらますこと)

俗世は人と人との間が狭々しく、憂いを感じることが多い。長く患っているこの憂いを癒すために、俗世から離れた花卷の山奥へと赴いた。人気がない部屋で、心に一片の蟠りもなく読書に耽り、焚いたお香から煙がなだらかに流れる様は、あの人のみだれ髪の様だと偲ぶ。

漢詩を創ってみたい人はラインで連絡をください。

令和元年12月26日、花巻温泉郷

から少し離れた台温泉旅館にて……

秋西 潜